

としょかん

いわて

岩手県立図書館報

2023. 09 No.193

contents

目次

ページ

02

特集 郷土資料をつくる

08

県内図書館の活動紹介

一関市立藤沢図書館

10

レファレンスコーナー

・江戸時代の精米方法について知りたい。

・岩手県南・宮城県北地域の習俗「釜男(かまおとこ)」について知りたい。

12

児童コーナー わかば通信

みてみて！ パンプキン

13

図書館掲示板

令和5年度巡回展のご案内



郷土資料をつくる



郷土に関する調べものをしていくと、一般資料に比べ、出版されている資料の少なさを感じる場合があります。とくに子ども向けの郷土資料の不足は、多くの図書館員が痛感するところではないでしょうか。そのような状況のなか当館で始まったのが「子ども向け郷土資料」事業です。

本特集では、この「子ども向け郷土資料」事業を中心に、解説文付きの企画展展示資料目録や、東日本大震災後に刊行した「いわて復興偉人伝」など、岩手県立図書館のスタッフが業務の中で「郷土・岩手」についてもっと多くの人に知って欲しいとの思いから作成し、郷土資料として活用されている資料やその取り組みについてご紹介します。



第1期

子ども向け郷土資料

第1期事業は、平成25年(2013)に始まりました。作成の背景には、学校教育の現場から、資料を使って岩手の歴史や風土について調べる「総合的な学習」を実施するための資料提供の相談が多く寄せられたことがあります。そこで、郷土に関する学習や子どもからのレファレンスへの対応をサポートできるものを作ろうということで始まったのが、「子ども向け郷土資料」でした。

5名の有志スタッフが作成に参加し、平成27年(2015)の発行を目指して事業はスタートしました。

■ テーマを選ぶ

作成のきっかけが、子ども向けの分かりやすい郷土資料が少なく、調べもの対応に苦慮したことだったことから、テーマには子ども向け資料であまり取り上げられない題材を選びました。また、作業負担を減らすため、一からすべて調べ直さな

くても良いよう、テーマは過去の企画展で取り上げたものから選ぶこととし、その際作成した解説文を子ども向けにアレンジして再活用することにしました。

最終的には郷土の先人から「vol.1 金田一京助」「vol.2 後藤新平」「vol.3 野村胡堂」「vol.4 原敬」の4名、そこに「vol.5 岩手の食文化」を加えて、合わせて5つのテーマを取り上げることになりました。

■ 作成にあたって

第2期では1つのテーマを複数スタッフで分担執筆していますが、第1期はテーマごとに1人のスタッフが担当し、1冊全てを書き上げています。ただし、使用する画像の掲載許諾申請は、依頼する機関ごとに分担を決め、とりまとめた上で手続きしました。

作成に当たっては、当館の図書館キャラクターである「そめちゃん」や「ポストン」のイラストを配したり、児童サービススタッフのアイディアでクイズやすごろくなどを取り入れたり、子どもたちの興味を引くよう工夫しました。難しい言葉

は、小学生向けの国語辞典を参考に分かりやすい言葉に置き換えるなど、やわらかい表現を用いるよう心掛けています。「総合的な学習」が始まる小学校3年生に合わせ、4年生以上で習う漢字にはルビを付けることにしました。

一通り書き上げた後は、執筆者以外のスタッフの間でも回覧し、より子どもたちが読みやすいよう、表現だけに限らず、使用するフォントやレイアウトも含め、沢山のアドバイスを貰いました。原稿が無事完成したのは、多くの方々の協力があったからこそだと思います。

■ 関連イベントの開催

予定通り平成27年(2015)4月から「子ども向け郷土資料」の配布が始まり、関連行事として「郷土資料のススメ」を開催することになりました。「子ども向け郷土資料」を読んでクイズに答えてもらう「検定」イベントです。「子どもの読書週間」(4月23日～5月12日)に合わせ、4～5月の2か月間を開催期間としました。



関連イベント「郷土資料のススメ」

検定参加者自体は延べ100名と想像より伸びませんでした。期間中の「子ども向け郷土資料」の配布数は合計950部にも上りました。子どもたちだけでなく、大人の方にも岩手について学ぶ入門書として手に取っていただけたようです。

イベント終了後も、児童コーナーに「子ども向け郷土資料」を設置し、継続的に配布しているほか、ホームページ上でPDFデータを公開し、ダウンロードして活用できるようにしています。



▲ ダウンロードページ

■ 反響

発行後は、いろいろな方から「良い資料ですね」「作成するのは大変だったでしょう」と暖かい言葉をかけていただきました。また、学校の先生方からは「ほかのテーマでも作って欲しい」とリクエストをいただくこともありました。今でも、授業の参考資料として活用したい、子どもたちに配布したいというお問い合わせをいただくことがあります。

強く印象に残っているのは、作成にあたって資料提供にご協力いただいた関連機関の方やほかの図書館の方が「こういう資料を作らなくてはならないと感じていた」とおっしゃっていたことです。子ども向けの郷土学習資料がいかに必要とされているかを感じ、あらためて作る意義があった、作って良かったと思います。

(岩手県立図書館 多田 香恵)



第2期

子ども向け郷土資料

令和元年(2019)7月、新体制による第2期子ども向け郷土資料チームを発足させました。作成するテーマには、「チャグチャグ馬コ」と「岩手県立図書館誕生物語」の2つが決まりました。

■ vol.6 チャグチャグ馬コ

岩手の初夏の風物詩チャグチャグ馬コは、毎年6月になると、児童、郷土資料カウンターに問い合わせが増えるテーマです。

しかし、関連資料はそれほど多くなく、また、貸出が重なれば、紹介できる資料も限られてしまいます。そこで、子ども向け郷土資料があれば、こうした問題の解消につながるかもしれないと考え、企画しました。

当初、令和2年(2020)6月の発行を目指して取り組んでいましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、その年のチャグチャグ馬コは中止となったことから、発行も翌年に見送ることにしました。

しかし、翌年になっても依然として新型コロナ

ウイルス感染症の勢いは収まらず、令和3年(2021)年もチャグチャグ馬コの開催が危ぶまれました。再び発行を見送るかをメンバーで話し合い、こういう時期だからこそ“おうちで楽しむチャグチャグ馬コ”として読んでもらおうと、発行を決めました。

表紙には、一目でチャグチャグ馬コとわかるような写真を滝沢市から提供いただきました。

また、岩手は古くから名馬の産地として知られており、そうした歴史や習俗を紹介するため、導入部に、“岩手の馬の歴史”と“馬とくらし”の章を設けています。

最も苦労したのは、全体として統一感のある文章に調整する作業でした。1人で1冊全てを作成した第1期とは違い、複数人で分担執筆することで、年号や用語、文体の統一など、細かい部分の調整にかなりの時間を要しました。

令和3年(2021)6月に完成したこの資料は、ミニ展示コーナーと、児童コーナーに設置し配布を開始しました。子どもだけでなく、さまざまな世代の方が手に取っていきなかで、「チャグチャグ馬コが、来年こそ復活するといいね」という声も聞こえてきました。



ミニ展示「チャグチャグ馬コ」の様子

■ vol.7 岩手県立図書館誕生物語

令和4年(2022)4月に岩手県立図書館が開館100周年を迎えることから、時宜にかなったテーマとして企画しました。

この資料は、表紙デザイン、さまざまな仕事の様子を写真で紹介した「岩手県立図書館の一日」など、多くの職員の協力を得て作成しています。

岩手県立図書館の歴史を紹介するだけでなく、普段は入ることのできない書庫や、特別コレクションの説明を取り入れ、さまざまな角度から当館を知ることができる内容になっています。

また、見学やインターンシップの学生への配布資料、また、県立図書館の設立に関わった原敬を取り上げた縁で、原敬記念館の企画展でも設置配布いただくなど、当館をPRする役割も担っています。



この資料の作成を通して、岩手県立図書館が設立されるまでの経緯や、戦時中の様子を知り、100年という歴史の重みを感じました。

児童の郷土学習の一助として、平成27年(2015)にスタートした「岩手県立図書館子ども向け郷土資料」事業。

第1期、第2期を通して、さまざまなテーマを試行錯誤しながら作成してきました。

こうした作業も含め、郷土資料サービスは、魅力とやりがいにあふれた仕事だと感じています。是非、ご一読いただければ幸いです。

(岩手県立図書館 岩持 河奈子)

制作秘話「子ども向け郷土資料 vol.3 野村胡堂」

私が担当した「子ども向け郷土資料 vol.3 野村胡堂」は、第1期 平成27年(2015)に発行したものです。

野村胡堂は現在の岩手県紫波町彦部生まれの小説家で、代表作「銭形平次捕物控」の他、あらえびすのペンネームで音楽評論家としても活躍

しました。晩年には、後進のために自身の収集していたSPレコードや小説執筆のための資料、蔵書などを各所に寄贈。岩手県立図書館にも、胡堂が亡くなった後、ハナ夫人が蔵書の一部を寄贈しており、その資料は、特殊文庫の一つ「野村文庫」として今も書庫に保管されています。



岩手県立図書館書庫内にある「野村文庫」

私と野村胡堂の関わりは、企画展示担当だった頃に「野村文庫」を展示で紹介したことに始まります。その際に胡堂の人物像や業績について詳しく知り、その生涯や人柄、側で支えていたハナ夫人にとっても惹かれ、郷土の偉人をより多くの子どもたちに（そして大人にも）是非知ってもらいたいと考え、野村胡堂の子ども向け郷土資料担当に立候補しました。

■子どもから大人まで

こうして資料作成に取り掛かりましたが、胡堂の伝記の中には400ページ以上あるものもあり、子ども向けに読みやすくするため、どの部分にポイントを置いて紹介するか、原稿を作っては見直す作業がしばらく続きました。また、参考資料のほとんどが一般（大人）向けの図書のため、子ども向けになるようやわらかい文章に置き換え、併せて、胡堂が生きた時代（明治から昭和にかけて）の具体的なイメージが湧きやすいよう、図や当時の写真を多く取り入れ、説明を細かく入れるなど、工夫しながら作業しました。

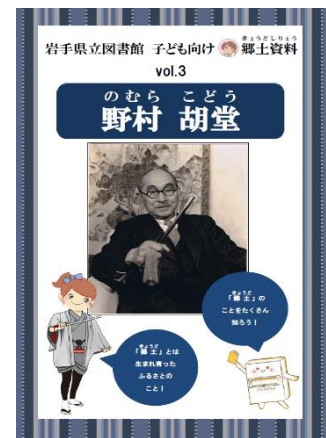
おおよその原稿ができてからは、子どもがわからない部分はどこか、児童担当をはじめ他のスタッフにも原稿をチェックしてもらい、最終的には、子どもだけでなく、大人にも「野村胡堂を知る入門書」として読んでもらえる資料を目指して制作を進めていきました。

■岡っ引そめちゃん登場！

ご存じの方には、胡堂といえば岡っ引の平次親分が活躍する時代小説「銭形平次捕物控」が思い浮かぶと思います。しかし、子どもは江戸が舞台

の時代小説を読む機会がないのではないかと、そして岡っ引という職業もわからないのでは…という考えから、目で見て胡堂のイメージが湧くキャラクターを作りたいと考えました。

当館には「そめちゃん」というオリジナルキャラクターの女の子がおり、資料の中にもたくさん登場しています。（そめちゃんについて詳しくは広報誌『PECCO』のバックナンバーvol.50をご覧ください。）早速広報担当スタッフに作成を依頼し、そして完成したのが表紙にいる「岡っ引そめちゃん」です。このそめちゃんには「銭形平次捕物控」を印象づけるのはもちろんのこと、「手に持っているもの（十手）は何だろう？」「この服装は何だろう？」と、ページをめくるきっかけになってくれればという願いも込めました。



岡っ引そめちゃんと「子ども向け郷土資料」の表紙

■おわりに

こうして、様々な人たちからの協力を得て、「子ども向け郷土資料 vol.3 野村胡堂」は完成しました。特に「野村胡堂・あらえびす記念館」からはたくさんの写真資料を提供していただくなど、多大なるご協力をいただきました。改めてお礼申し上げます。

子ども向け郷土資料は私が担当した野村胡堂の他、計7冊刊行されています。第1期制作メンバーとしては、これからも、この資料が子どもから大人までたくさんの人の手に渡り、野村胡堂を、そして郷土を知るきっかけになってくれればと思います。

（岩手県立図書館 永塚 優美子）



いわて復興偉人伝 - 忘るまじ、郷土の誇り -

『いわて復興偉人伝』は、明治三陸地震津波や関東大震災など、過去の災害復興に尽力した先人たちを紹介する小冊子です。

■ 制作の経緯

平成 23 年(2011)年 3 月 11 日に発生した東日本大震災から約 2 か月が経過した頃、郷土資料カウンターには、過去の三陸地震津波や、関東大震災から東京を復興させた後藤新平に関する問い合わせが多く寄せられていました。

依頼された調査を通して、過去の災害がいかに大変な状況であったかを知ると同時に、先人たちが災害復興に尽力してきたことに強く心を打たれ、この歴史を何らかの形で伝えたいと考えようになりました。

ある日、そのことを上司に相談すると、「復興偉人伝でも作ってみたら？」という言葉が返ってきました。この一言に背中を押されて、『いわて復興偉人伝』の作成を決心しました。

■ 復興への思い

紹介する先人には、及川栄、煙山八重子、後藤新平、柴琢治、関口松太郎、和村幸得、山奈宗真、田中館愛橘の 8 名を選びました。

また、余録として、「高田松原を育てた先人たち」と「古記録にみる大地震」を収録することにしました。余録は、「復興偉人伝でも作ってみたら？」と助言してくださった上司に提供いただきました。

最も苦労したのは、発行の主旨の文章です。何を書いたらよいのか、何のためにこれを作成したのか、考えれば考えるほどわからなくなり、苦しい作業でした。

何日も悩んだ末、今できることは、過去の災害復興に尽力した先人という観点から復興への思いを形にすることしかないと覚悟を決めて、作業に向き合いました。

そしてついに、上司と同僚の協力を得て、平成

23 年(2011)年 7 月、『いわて復興偉人伝』が完成しました。

■ 設置配布後の反響

館内に設置配布後の反響として、「こんなに尽力した人がいたなんて初めて知った」「『復興』のキーワードで岩手の偉人の活躍を紹介するのは時宜を得たものだと思う」といったご意見をいただき、安堵しました。

また、ホームページにも掲載したことで、県内外のテレビや新聞社から、先人についての問い合わせが寄せられました。中でも、普代村の元村長・和村幸得は、BS 放送の教養番組で取り上げられるきっかけにつながりました。

このほか、学校現場での防災教育の資料として活用したいという問い合わせなどもありました。



■ おわりに

発行から現在まで、災害をテーマにした展示の際には設置配布を行ってきました。今でもこれを手にとると、未曾有の災害を経験し、何かできることはないかと悩んだ日々を思い出します。

『いわて復興偉人伝』の制作にあたって、数々の助言をくださった上司と、共同執筆者である当時の同僚には、心から感謝しています。

これからも、図書館員としての視点で、郷土の情報を発信していくことに取り組んでいきたいと思えます。

(岩手県立図書館 岩持 河奈子)



企画展 展示資料目録

岩手県立図書館では、所蔵資料の紹介・利用促進のため、館内の展示コーナーで定期的に(現在は年 5 回)企画展を開催しています。開催に際し

ては展示資料目録を発行し、ご自由にお持ち帰りいただけるよう、展示コーナーに設置しています。この目録は元々、展示資料リストと年表等の簡単な資料のみを収録したものでしたが、平成23年度(2011)から展示の解説文も収録するようになりました。これによりブックリストとしてだけでなく、後日展示内容を振り返ったり、軽い読み物として楽しむ等の目的でもご利用いただけるようになりました。以降12年間、現在も企画展ごとに発行が続く、解説文を収録した形式の展示資料目録について、制作の経緯等をご紹介します。

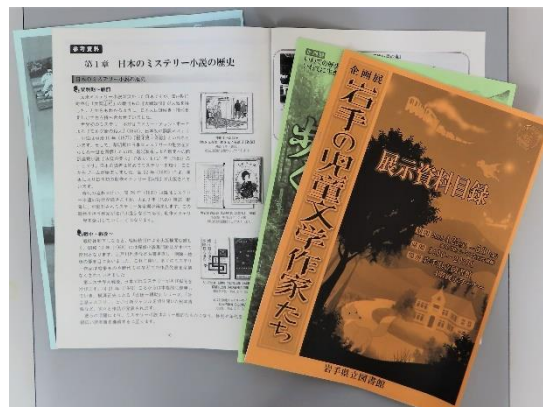
■ 制作の経緯

制作のきっかけとなったのは、ある博物館で企画展ごとに無料配布されていた、解説の小冊子です。数ページの小冊子ながら内容は濃く、展示内容を何度も振り返ることができるという、利用者にとっては実にありがたい資料でした。このような資料を図書館でも作成・配布できないかと思ったのです。多くの博物館で発行・販売されている、厚さのある展示図録のような資料は、能力・時間・予算的に作成不可能ですが、このような小冊子であれば可能ではないかと考えました。

従来の展示資料目録と同じく、印刷は館内の回転機で行い、製本はホチキス止めとし、特別な予算がかからない形としました(ページ数は10ページ程度から15ページ程度へ増加)。原稿については、元々、展示コーナーに設置するパネル用に解説文を作成していますので、それを編集して収録することとしました。パネル用であれば展示期間中の一過性のものですが、冊子として発行するとなると、内容の正確性がより一層求められます。そのため企画展準備のスケジュールを見直し、解説文の作成期限を早めて、複数人でチェックを重ねるといった体制作りを行いました。また文字だけでなく、なるべく画像も掲載することを目指し、掲載に許諾が必要な画像については、その手続きも併せて行うようにしました。

企画展準備にひと手間加えた形での制作でしたが、当初は編集作業にも不慣れで時間がかかり、図書館発行のものとしては前例となる発行物もなく、「これでいいのか」という不安が大きかったです。しかし回を重ねるごとに編集作業にも慣

れ、また利用者からも概ねご好評をいただくことができました。解説文を収録した展示資料目録の制作は、歴代の企画展担当者に引き継がれ、令和5年(2023)8月現在までに64種を発行しています。



解説文を収録した展示資料目録

■ 目録の活用例、反響

岩手県に関するさまざまなテーマで企画展を開催していることから、展示資料目録の内容も多岐にわたり、各分野のレファレンス資料としても活用できます。ブックリストとしてはもちろん、解説文で概要を把握し、新たなキーワードを得て検索範囲を広げていくこともできます。また当館所蔵古文書等をメインに取り上げた企画展の目録は、古文書等の解題としても活用できる貴重な情報源になっています(「街道を歩く」平成29年(2017)など)

解説文だけでなく、県出身作家に依頼し執筆していただいたコメントを掲載した目録もあります。こちらは、興味深い読み物として楽しむことができます(「岩手の児童文学作家たち」平成25年(2013)、「岩手のミステリー作家たち」平成29年(2017))。

近年の企画展ごとの展示資料目録の平均配布部数は、約200~300部です(開催期間2か月程度)。この12年間で配布部数が最も多かったのは、平成25年(2013)の「盛岡藩の戊辰戦争」で866部です。同展は大きな反響があり終了後も問い合わせが多く、何度も増刷して対応しました。この記録が破られる日はいつなのか、今後も展示資料目録の制作は続いています。

(岩手県立図書館 渡辺 美知)

県内図書館の活動紹介

県内各地の図書館から特徴と活動をご紹介します

一関市立藤沢図書館

所在地：〒029-3405 岩手県一関市藤沢町藤沢字仁郷 12-5（藤沢文化センター内）

TEL: 0191-63-5088 FAX: 0191-63-5088 Email: fujitosh@city.ichinoseki.iwate.jp

現館建築年月：平成9年12月 延べ床面積：277㎡



図書の蔵書冊数： 50,487 冊（令和5年3月31日現在）

年間来館者数： 9,443 人（令和4年度）

年間登録者数： 1,917 人（令和4年度）

開館時間	平日：午前10時00分～午後7時00分 土日祝日：午前10時00分～午後6時00分		
休館日	・月曜日（祝日の場合は翌平日） ・資料整理日（第4木曜日、ただし祝日の場合は開館） ・年末年始（12月29日～1月3日） ・蔵書整理期間		
登録範囲	・居住地、勤務地等による制限なし		
貸出点数・期間	点数(点)	期間(日)	延長
	図書・雑誌	期間内に利用できる点数	21 可
	C D	期間内に利用できる点数	21 可
	ビデオ・DVD	5（各館につき）	21 可

一関市立藤沢図書館の特徴と活動

はじめに

平成9年12月、旧藤沢町の生涯学習推進の拠点施設として、文化会館（縄文ホール）、図書館及び勤労者総合福祉センター（現：藤沢市民センター）の複合施設の形で藤沢町文化交流センターが竣工しましたが、藤沢町図書館は平成10年4月に開館し、町民への図書館サービスの提供を開始しました。本町では昭和40年代後半より、過疎からの脱却と自立をめざして、「みんなのふじさわ、みんなでつくろう」を合言葉に町民主体のまちづくりに取り組み、時代の変化と発展に対応したまちづくりを町民総参加で進めてきたことから、住民に身近な図書館も基本的かつ重要な施設として位置づけられました。平成23年9月には、市町村合併に伴い一関市立藤沢図書館となり、市内8館がオンラインで繋がっているため、どこで借りても、どこに返してもOKという状況になっています。また、縄文のまちをPRするために複合施設の特徴を活かし、市内外の方に親しまれています。

運営について

一関市内の8図書館は全て直営で、藤沢図書館は館長（併任）を含め職員体制は6人です。一関市立図書館振興計画である「市民の心を豊かに満たし、市民とともに成長する図書館」を基本目標に掲げています。市内8館の中では施設の規模や蔵書数、資料費、職員数も最少ことから、複合施設の利点を活かしながら地域館として特色のある魅力的な図書館を目指し、主に館外サービスや各種イベント、企画展示の実施に力を入れています。図書館入り口前の文化センターロビーでは、スペースを最大限に活かして連携企画やイベント関連、地域密着型など複数の企画展示を開催、また、館内を含めると常に12種類ほど同時に行っています。展示の準備段階では図書館の書籍以外にフリーペーパーやチラシ、時には民族衣装や備品、関連商品など目でも楽しんでいただけるように常に意識をしています。さらには数年間から常設している藤沢町出身の郷土作家「楡周平氏」コーナーは大変好評をいただき、展示の効果を実感しています。



▲図書館入り口前のロビー企画展

子どもの読書活動の推進に向けて

当館は、特に児童やYA世代の利用が著しく少ないため、利用者の来館を待つだけでは限界を感じ、9年ほど前から館外サービスにも力を入れています。特に一人では来館する事が困難である幼児から中学生までを視野に入れ、毎月各施設を訪れ、公用車での個人貸出及び団体貸出並びにおはなし会を実施しています。各施設に出向くことで、毎月ほぼ全員の子どもたちに確実に本を届けることが可能になりました。他にも小中学校への支援として、図書館見学の受け入れやブックトークの実施、図書担当、読書普及員、図書館職員との合同会議、図書室の除籍のアドバイス等も行っています。館外サービスを行ううえで各施設との連携は必要不可欠ですが、双方が子どもたちの読書環境の充実の重要性を共感・共有し、共創に繋がっていくことを信じて日々頑張っています。

特色あるまちづくりへの展開

毎年度予算化されている地域おこし事業（市長部局）は、地域住民と行政が相互に協力し、自立に向けた活力の創出かつ地域特性を活かした特色ある地域づくりの推進を目的としています。当館では令和元年度より当予算を活用し、「郷土の先人から学ぶ、職業の魅力大発見！」をテーマに3年かけて写真家、書家、俳人にスポットを当て、イベントや関連展示を実施。また、令和4年度からは「藤沢町の素敵を発信!!～縄文を知る、郷土作家を知る～」として、縄文、楡周平氏をピックアップし、縄文関連では「岩手の縄文人」をテーマに望月昭秀氏と響田亜紀子氏によるトークイベント、「楡周平」作品の鑑賞をメインに開催しました。いずれの事業も藤沢地域の特徴を活かしながら、参加者はもとより講師の方からも当町や図書館の魅力を情報発信していただく良い機会となっています。



▲トークイベント「岩手の縄文人」

今回ご紹介した取り組みの中で特に意識をしている他部署との連携は、公共図書館としての役割を藤沢支所管内をはじめ、町内の各事業所や店舗などにも知っていただくことで、当館の運営にご理解・ご協力をいただき、結果として潜在的な利用者の獲得にも繋がっています。

（一関市立藤沢図書館 担当：菊地）

レファレンスコーナー

県立図書館に寄せられたレファレンスの事例を紹介します。

Q. 江戸時代の精米方法について知りたい。

【キーワード】

精米 米 白 搗米屋

【調査プロセス】

1. 精米に関する資料を調査。
2. 江戸時代の米文化に関する資料を調査。



【回 答】

江戸時代に地方から江戸に行った人が白米を食べすぎてビタミン B1 が不足し、脚気などの体調不良になることを「江戸わずらい」と呼んだそうです。利用者はこの言葉を知って江戸時代の精米に興味を持ったそうです。

まずは「精米」について参考図書で確認します。『日本大百科全書 13』には「昔は白に入れた玄米を杵で搗（つ）いて行った」とあります。

『体系農業百科事典 4』の「精米小史」には“米を搗く方法は古代から知られていたが（中略）17世紀、江戸時代の半ばになって、一般国民が白米を常食とするようになった。白米食に伴う搗精（とうせい）用具として、そのころまでに手搗臼・足踏臼が使われたが、この時代以後には水車搗きが盛んになった。さらに江戸時代の1850年ごろから搗粉（つきこ）を混入して搗く混砂搗きが始まった。”とあります。搗粉は米の摩擦力をあげ能率を向上させるために使用するものです。

次に江戸時代の米文化に関する資料を調査しました。『米の日本史』によると白米が普及したのは元禄時代（1688～1704年）頃で精米技術の向上によるものとあります。木摺り臼や土臼と呼ばれる回転臼などが使用され、“精米の道具が普及したことで、江戸では米搗屋（こめつきや）が杵を担いで町を歩き、求めがあれば米を搗いていたという。”とあります。

江戸時代に米を精米する職業があることが分かりました。『日本歴史大辞典 7』で「搗米屋」の項目を確認すると“江戸ではこれを木屋（ぼくや）とも称した。これは木臼（ぼくうす）をもって搗精するからである。当時水車の搗精米は行われていたが、一般には喜ばれず、搗米屋（つきごめや）がみずから足踏みにて精白するのをよしとしていた。”とあります。

人々の日々の暮らしを絵に描き、和歌に詠んだりする<職人尽（しょくにんづくし）>というもののなかにも職人の米搗きが描かれました。『鋤形蕙斎画 近世職人尽絵詞』には「米搗き（搗搗き）」「米搗き（唐臼踏み）」が描かれており、当時の精米の様子が分かります。

今では当たり前のように食べている白米ですが、実際に多くの人の口に入ったのは江戸時代からで、精米技術や道具が普及したことによるものだということが分かりました。

【主な参考資料】 ※（ ）内は当館請求記号

- ・『日本大百科全書』 小学館 1987年（R031/= 10/1-13）
- ・『日本歴史大辞典』 日本歴史大辞典編集委員会／編集 河出書房新社 1985年（R 210.03/= 5/7B）
- ・『米の日本史』 佐藤 洋一郎／著 中央公論新社 2020年（616.2/卅）
- ・『体系農業百科事典 4 食品工業』 農政調査委員会／編纂 農政調査委員会 1966年（610.3/々 2/4）
- ・『鋤形蕙斎画 近世職人尽絵詞』 大高 洋司、小島 道裕、大久保 純一／編 勉誠出版 2017年（721.8/々々）

Q.

岩手県南・宮城県北地域の習俗「釜男^{かまおとこ}」について知りたい。
インターネット検索をした限りでは、「釜男」とは竈付近の柱に
かけるお面のことを指すと思われる。しかし旧江刺郡の昔話には
「釜男という柱」という一文が出てくる。
江刺郡には「釜男」という名前の柱が存在するのか？



【キーワード】釜男 釜神 竈神 火男 江刺

【調査プロセス】

1. 旧江刺郡を中心とした岩手県南地域の市町村誌、民俗に関する報告書や参考図書などを調査。
2. 岩手の民話・伝承に関する資料を調査。
3. 国立国会デジタルコレクションにてキーワード「釜男」/NDC 分類 38 で検索。

【回 答】

まずは利用者の事前調査資料「火男の話(岩手県江刺郡)」(『こぶとり爺さん・かちかち山』に収録)、「ひよつとこの始まり」(『江刺郡昔話』に収録)を確認しました。両者を比較したところ、出典の記載こそ確認できませんでしたが、前者「火男の話」は後者を口語訳したものであるようでした。“この土地の村々では、いまでも醜いひよとく(火男)の面を、木や土でつくって、竈前の釜男という柱にかけておくそうである。”という記述があります。

次に、旧江刺郡を中心とした岩手県南地域の民俗に関する資料を調査しました。カマガミ、カマドガミ、カマオトコ、カマジンツァン、カマダイコク、カマベツトウ……などなど、呼び方は色々あれど、いずれも柱にかける面のことを指して言うようです。柱自体にも大黒柱、丑持柱、嫁隠し柱、またはカマ柱などと様々な呼び名があるようですが、明確に柱を「釜男」と呼ぶ事例は確認できませんでした。

続いて岩手の民話・伝承に関する資料を調査したところ、『東奥異聞』に掲載されている「ひよつとこの話」に同様の記述を確認しました。『東奥異聞』は『江刺郡昔話』と同じく佐々木喜善の著作です。該当部分を以下に引用します。

“其れは陸前の登米、本吉、気仙の諸郡から、陸中の東磐井、江刺(以上旧仙台領)其他是等の地方に近接した地方に涉つて行はれて居る竈神とて粘土や木刻の円眼船口形の奇怪な面を家々の柱に懸けて置く風習があることである。其の懸ける柱を此の地方では竈男と言ひ、其の面をばヒヨウトク、或ひはシヨウトクなど呼んで居る。”

最後に NDL デジタルコレクションにてキーワード「釜男」、NDC 分類を 38 に絞って検索しました。民俗学事典や昔話集成などいくつかの資料がヒットしましたが、いずれも上記の『江刺郡昔話』または『東奥異聞』を出典としたものでした。中には出典の記載がない古い資料もありましたが、内容や文面から判断するに、同資料を元に書かれたものの可能性が高いと思われます。

今回の調査において「釜男という柱」という記述の一次資料として確認できたのは、佐々木喜善の著作のみでした。利用者には「他の資料は見つけることができず、江刺郡における釜男という柱の存在は確認できなかった」との回答をお伝えしました。しかし、もしかしたら今回調査した資料には載っていただけ、調査時に事例として採集されなかっただけ……ということも十分にあり得ます。このように物事の存在を裏付ける作業は、時として非常に難しいものだと感じました。

【主な参考資料】 ※ () 内は当館請求記号

- ・『江刺郡昔話』佐々木 喜善/著 岩手民声社 1981.5 (K388.122/卅)
- ・『東奥異聞』佐々木 喜善/著 坂本書店出版部 1926.3 (K388/卅 1/1)
- ・『こぶとり爺さん・かちかち山』関 敬吾/編 岩波書店 2002.5 (388.1/コブ)
- ・『図説民俗建築大事典』日本民俗建築学会/編 柏書房 2001.11 (R383.91/ズセ)
- ・『陸前北部の民俗』和歌森 太郎/編 吉川弘文館 1969 (382.123/ワ 1/1)

県立図書館児童コーナーの活動をご紹介します。



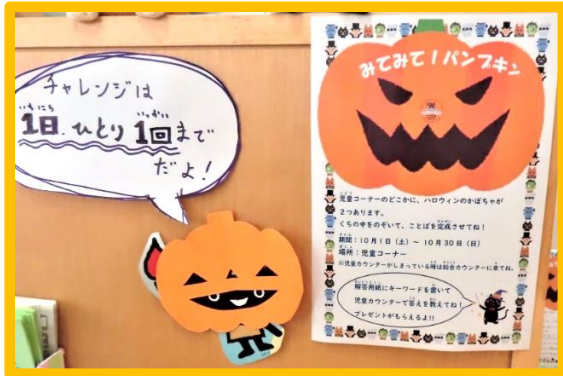
みてみて！ パンプキン



児童コーナー季節展示「おばけまじょだいしゅうごう」に合わせて、新型コロナ流行中でも参加してもらえるハロウィンイベントを開催しました。児童コーナーの中で言葉探しに挑戦！ 正解した人には、おばけのしおりや折り紙と、おすすめ本の紹介文を、カプセルトイのカプセルに入れてプレゼントにしました。

★参加方法★

1. フロアにあるかぼちゃ（2個）をみつける。
2. かぼちゃの中にある文字をみつける。
3. ひとつの単語を完成させる。



参加は、「ひとり一日、一回まで」としました。「かぼちゃは、どこにあるの？」と質問されることもありました。



いよいよ、カプセルのくじ引きに挑戦！ 子ども達は、みんな楽しそうに参加してくれました。カプセルを開ける時の子ども達のうれしそうな表情に、こちらも笑顔になりました。



中身は、おばけのしおり・折り紙のかぼちゃなど。おすすめ本は、過去にメルマガで紹介したものです。「せっかくだからおすすめ本を借りてみたい！」という子もたくさんいました。

図書館掲示板

県立図書館からの連絡や告知をお届けします

令和5年度巡回展のご案内

毎年岩手県立図書館では、学習機会の提供と読書の普及奨励に資するため、過去に行われた企画展の展示資料を再構成し、申し込みのあった市町村立図書館等へ貸出を行っています。

今年度もたくさんのお申込みをいただきました。誠にありがとうございました。

寄せられた希望の日程を調整し、次ページからの日程で開催される予定となりました。

巡回展の開始2週間前には、ポスターと目録を当館のホームページの「市町村立図書館等ログイン」内「コミュニティ→ライブラリ→展示資料施設貸出（巡回展）」に投稿いたします。展示開催前の告知や配布用目録の印刷、自館の資料を合わせて展示する用意をするなど、事前の準備にご利用いただけます。

今年度の巡回展は、以下のテーマの展示を巡回します。

※手づくり絵本展につきましても、例年通り貸し出しを行う予定です。

文学賞受賞図書展

令和4年6月から令和5年5月までの間に発表された文学賞のうち、岩手県立図書館所蔵図書をまとめた展示です。県内12カ所を巡回します。

佐々木喜善・没後90年

遠野市出身の民話研究家・佐々木喜善は、令和5年で没後90年を迎えます。喜善は地域に伝わる民話を貴重な文化的資源と捉え、ふるさと遠野を中心に岩手や東北の各地で収集しました。「日本のグリム」と呼ばれる佐々木喜善の生涯と功績を紹介する展示です。県内15カ所を巡回します。

幾歳経るとも要心あれ

令和5年は昭和三陸地震から90年、関東大震災から100年にあたります。地震大国と呼ばれる日本において、防災意識が大きく高まるきっかけとなった関東大震災、そして岩手県をはじめ三陸沿岸に甚大な被害をもたらした昭和三陸地震を中心に地震・津波災害について紹介する展示です。県内15カ所を巡回します。

賢治資料展

過去2年間に岩手県立図書館が新たに収集した宮沢賢治関連図書の展示です。県内8カ所を巡回します。

『文学賞受賞図書展』展示資料貸出期間一覧

No	貸出期間			貸出施設名	移送期限	移送先
1	2023年	8月25日(金)	～ 9月3日(日)	花巻市立東和図書館	9月7日(木)	岩泉町立図書館
2		9月8日(金)	～ 9月17日(日)	岩泉町立図書館	9月21日(木)	盛岡市渋民図書館
3		10月6日(金)	～ 10月15日(日)	盛岡市渋民図書館	10月19日(木)	花巻市立花巻図書館
4		10月20日(金)	～ 10月29日(日)	花巻市立花巻図書館	11月2日(木)	二戸市立図書館
5		12月1日(金)	～ 12月10日(日)	二戸市立図書館	12月14日(木)	花巻市立大迫図書館
6	2024年	1月19日(金)	～ 1月28日(日)	花巻市立大迫図書館	2月1日(木)	釜石市立図書館
7		4月12日(金)	～ 4月21日(日)	釜石市立図書館	4月25日(木)	山田町立図書館
8		4月26日(金)	～ 5月5日(日)	山田町立図書館	5月9日(木)	久慈市立山形図書館
9		5月10日(金)	～ 5月19日(日)	久慈市立山形図書館	5月23日(木)	花巻市立石鳥谷図書館
10		6月7日(金)	～ 6月16日(日)	花巻市立石鳥谷図書館	6月20日(木)	大槌町立図書館
11		6月21日(金)	～ 6月30日(日)	大槌町立図書館	7月4日(木)	紫波町図書館
12		7月19日(金)	～ 7月28日(日)	紫波町図書館	8月1日(木)	岩手県立図書館

『佐々木喜善・没後90年』展示資料貸出期間一覧

No	貸出期間			貸出施設名	移送期限	移送先
1	2023年	9月8日(金)	～ 9月17日(日)	野田村立図書館	9月21日(木)	紫波町図書館
2		9月22日(金)	～ 10月1日(日)	紫波町図書館	10月5日(木)	花巻市立大迫図書館
3		10月6日(金)	～ 10月15日(日)	花巻市立大迫図書館	10月19日(木)	一戸町立図書館
4		10月20日(金)	～ 10月29日(日)	一戸町立図書館	11月2日(木)	岩泉町立図書館
5		11月3日(金)	～ 11月12日(日)	岩泉町立図書館	11月16日(木)	二戸市立図書館
6		11月17日(金)	～ 11月26日(日)	二戸市立図書館	11月30日(木)	花巻市立石鳥谷図書館
7		12月1日(金)	～ 12月10日(日)	花巻市立石鳥谷図書館	12月14日(木)	山田町立図書館
8		12月15日(金)	～ 12月24日(日)	山田町立図書館	1月4日(木)	盛岡市渋民図書館
9	2024年	1月5日(金)	～ 1月14日(日)	盛岡市渋民図書館	1月18日(木)	花巻市立花巻図書館
10		1月19日(金)	～ 1月28日(日)	花巻市立花巻図書館	2月1日(木)	花巻市立東和図書館
11		2月2日(金)	～ 2月11日(日)	花巻市立東和図書館	2月15日(木)	大槌町立図書館
12		2月16日(金)	～ 2月25日(日)	大槌町立図書館	2月29日(木)	久慈市立図書館
13		4月12日(金)	～ 4月21日(日)	久慈市立図書館	4月25日(木)	久慈市立山形図書館
14		4月26日(金)	～ 5月5日(日)	久慈市立山形図書館	5月9日(木)	釜石市立図書館
15		6月7日(金)	～ 6月16日(日)	釜石市立図書館	6月20日(木)	岩手県立図書館

『幾歳経るとも要心あれ』展示資料貸出期間一覧

No	貸出期間			貸出施設名	移送期限	移送先
1	2023年	11月17日(金)	～ 11月26日(日)	大槌町立図書館	11月30日(木)	宮古市立図書館
2		12月1日(金)	～ 12月10日(日)	宮古市立図書館	12月14日(木)	矢巾町図書センター
3		12月15日(金)	～ 12月24日(日)	矢巾町図書センター	1月4日(木)	釜石市立図書館
4	2024年	1月5日(金)	～ 1月14日(日)	釜石市立図書館	1月18日(木)	久慈市立図書館
5		2月2日(金)	～ 2月11日(日)	久慈市立図書館	2月15日(木)	紫波町図書館
6		2月16日(金)	～ 2月25日(日)	紫波町図書館	2月29日(木)	野田村立図書館
7		3月1日(金)	～ 3月10日(日)	野田村立図書館	3月14日(木)	盛岡市都南図書館
8		3月15日(金)	～ 3月24日(日)	盛岡市都南図書館	3月28日(木)	山田町立図書館
9		3月29日(金)	～ 4月7日(日)	山田町立図書館	4月11日(木)	二戸市立図書館
10		4月12日(金)	～ 4月21日(日)	二戸市立図書館	4月25日(木)	花巻市立大迫図書館
11		5月10日(金)	～ 5月19日(日)	花巻市立大迫図書館	5月23日(木)	一戸町立図書館
12		5月24日(金)	～ 6月2日(日)	一戸町立図書館	6月6日(木)	岩泉町立図書館
13		6月7日(金)	～ 6月16日(日)	岩泉町立図書館	6月20日(木)	久慈市立山形図書館
14		7月5日(金)	～ 7月14日(日)	久慈市立山形図書館	7月18日(木)	花巻市立石鳥谷図書館
15		7月19日(金)	～ 7月28日(日)	花巻市立石鳥谷図書館	8月1日(木)	岩手県立図書館

『賢治資料展』展示資料貸出期間一覧

No	貸出期間			貸出施設名	移送期限	移送先
1	2024年	2月16日(金)	～ 2月25日(日)	九戸村公民館図書室	2月29日(木)	一戸町立図書館
2		3月29日(金)	～ 4月7日(日)	一戸町立図書館	4月11日(木)	盛岡市渋民図書館
3		4月12日(金)	～ 4月21日(日)	盛岡市渋民図書館	4月25日(木)	大槌町立図書館
4		5月10日(金)	～ 5月19日(日)	大槌町立図書館	5月23日(木)	山田町立図書館
5		6月7日(金)	～ 6月16日(日)	山田町立図書館	6月20日(木)	岩泉町立図書館
6		6月21日(金)	～ 6月30日(日)	岩泉町立図書館	7月4日(木)	矢巾町図書センター
7		7月5日(金)	～ 7月14日(日)	矢巾町図書センター	7月18日(木)	釜石市立図書館
8		7月19日(金)	～ 7月28日(日)	釜石市立図書館	8月1日(木)	岩手県立図書館

岩手県立図書館報

としょかん いわて

No.193

発行日 令和5年9月30日

編集・発行 岩手県立図書館